

# 大好き！ 南三陸町！！

南三陸町立志津川小学校 校内研究便り  
平成30年8月26日 No.2文責：小室



## 協働研究の取組

6月12日の指導主事訪問では、第2学年生活科、第3学年算数科、第6学年英語科の授業を見ていただきました。今年度は、学年部ごとに3つのグループに分かれ、チームでの授業づくりを進めています。

また、5月から取り組んできた全体での研修、学年部での話し合い、模擬授業をとおして、児童の学習意欲を高めるための発問、友達同士の対話から自分の考えにより深みを得るための場をいかに設定したらよいかを、試行錯誤しながら取り組んできました。一つ一つ学年部で検討を重ねていく中で、チームで取り組む授業づくりは、児童が達成感をもつことができる授業につながっていると考えています。

## 各教室での授業の様子

### 2年生活 単元名「キクをそだてよう」

授業者：早坂 潤 協働研究者：高橋 菜穂子、武山 浩、二階堂 千春



どんな学習をしてきたか、どんな考えをもったかなど、掲示物を通して振り返りました。また、多種類のキクの実物を提示したり、南三陸のキクの流通の様子について日本地図で様子を表したりすることで、キクへの興味関心を高めました。特に自分のキクに名前を付けたことは、キクへの愛着を高めるのに有効でした。

グループで話し合い活動を行いました。付箋紙を活用することで、自分と友達の考えを比較し、共通点や相違点を見つけやすくなるようにしました。グループで出た意見を模造紙に貼ると、大きく分けて「水」「肥料」「日当たり」「その他」の観点に分類されました。キク栽培に対しての疑問点についてはキク名人に手紙を書いて質問することになりました。

### 3年算数 単元名「大きい数の計算を考えよう」

授業者：首藤 大知 協働研究者：村上 悠子、畠山美和、高橋佳子、加藤まゆ子



導入では、算数コーナーを活用して前時の内容を振り返り、3位数－3位数の筆算や繰り下がりの仕方を確認しました。問題文を身近な生活の場面に置き換えることで、算数に対して苦手意識が強い児童も関心を持ち、課題に取り組む姿が見られました。自力解決の場面では、視覚的に考える補助となるよう、ヒントカードとして位取り表を用意しました。

ペアで考えを交流したり、ICTを活用して児童のノートを全体で見ながら考えを聞いたりする活動を通して、他者と意見を交流し、自分の考えを深めるようにしました。適用問題は難易度を変えることで、一人一人の実力に合わせて、学習内容の定着や達成感を味わうことができるようにしました。

### 6年外国語 単元名「I can swim.」

授業者：齋藤 康貴 ALT アニシア・スミス

協働研究者：千葉 なぎさ、千葉 絵美、佐藤 光昭、須藤 千幸、阿部 あゆ美、廣木 友美



これまでの復習として、「～できる」や「～できますか」という英語表現を全員で確かめた後、チャンツを歌って慣れ親しませたり、書く練習や会話練習を行ったりして理解を深めました。また、話型の見本を提示することで、それらを参考に学習活動に取り組む子どもたちの姿が見られました。

「can」を使って、友達にできることをインタビューする活動を行いました。積極的に友達に尋ねることができるよう、会話の中にアイコンタクトやあいづちを入れたりしました。まずは隣同士、班同士、その後ほかの班の友達や先生たちにインタビューを行ったりしながら、コミュニケーションを図ることができました。